



TITLE:

同盟罷工と和解及仲裁制度(其一)

AUTHOR(S):

河田, 嗣郎

CITATION:

河田, 嗣郎. 同盟罷工と和解及仲裁制度(其一). 經濟論叢 1917, 5(3): 313-341

ISSUE DATE:

1917-09-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127264>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷五第

行發日一月九年六正大

論 說

同盟罷工と和解及仲裁制度(一)……………法學士 河田 嗣郎

所得税ニ於ケル所得ノ意義(二)……………法學博士 神戸 正雄

露西亞主義……………法學士 米田庄太郎

飛脚ノ變遷(二、完)……………法學士 本庄榮治郎

時事問題

戰後^{ニ於ケル}軍國主義ト民主々義……………法學博士 戸田 海市

雜 錄

あだむ・すみす傳拾遺……………法學博士 河 上 肇

獨逸ノ植民的發展ノ起源……………山本美越乃

露國ノ定期刊行物ニ就テ(一)……………文學士 高 倉 輝

ゆこ・すらう民族運動(二、完)……………文學士 米田庄太郎

經濟漫錄(三)……………瀧本 誠一

しゅもーらゝノ戰後ノ獨逸觀……………法學士 榊田 民藏

米國ニ於ケル婦人ノ職業……………法學博士 河 上 肇

臺灣^{ニ於ケル}死亡率及疾病統計……………文學博士 内田 銀藏

經濟論叢

第五卷 第三號 (通卷第二十七號) 大正六年九月發行

論 說

同盟罷工と和解及仲裁制度 (其二)

河 田 嗣 郎

目 次

- (一) 同盟罷工ノ意義
 - (二) 同盟罷工ノ原因及ビ目的
 - (三) 同盟罷工ノ種類
 - (四) 同盟罷工ノ是非
 - (五) 同盟罷工ノ數ト結果
 - (六) 和解及ビ仲裁制度ノ是非
 - (七) 諸國ノ和解及ビ仲裁制度
 - (八) 和解及ビ仲裁制度ノ效果
- (以上本號掲載)
- (以上次號掲載)

一 同盟罷工ノ意義

工場工業組織ニ伴フ現時ノ意味ノ同盟罷工ハ、歐米諸國ニ於テモ餘リ古キ歴史ヲ有スルモノデハナイガ、我國ニ在リテハ工業發達ノ頗ル遅レタルダケ、同盟罷工モ亦最近ニ至ツテ漸ク現實ナル問題トシテ研究スルニ値スルモノトナツテ來タ。ソレデモ今ヤ我國ニ於テ同盟罷工ハ隨分頻繁

ニ行ハレ、特ニ大戦ノ間接ノ影響トシテ本年ニ入リテ其然ルヲ見ルニ至ツタガ爲メニ、問題ハ甚ダ其ノ意義ノ重大ナルヲ感ゼラルルコトトナツタト同時ニ、同盟罷工ナルモノガ、如何ナル目的ノ爲メニ行ハルルモノデ、如何ナル意味合ノモノナルカハ、漸ク汎ク世ニ了解セラレントスル所トナツタ。從テ今同盟罷工ニ就イテ論ズルニ當ツテハ、其ノ本質等ニ關シテハ多ク絮説ヲ必要トシナイト信ズル。

唯併シ乍ラ同盟罷工ノ性質ヲ十分明カニスルガ爲メニ一言ヲ費シテ置カナケレバナラヌ事ハ、同盟罷工ナルモノハ、労働者ガ労働契約ノ内容ヲ改善シ労働條件ヲ自己ニ取リテ有利ナラシメンガ爲メニ、其ノ要求貫徹ノ手段トシテ之ヲ行フモノデアルカラ、ソハ決シテ労働契約ノ破棄ヲ意味スルモノデハナク、タダ其ノ一時的ナル中斷ヲ意味スルモノタルニ外ナラヌコト之デアル。而シテ又ソハ或ル目的即チ労働條件ノ改善ト云フ目的ヲ貫徹セムガ爲ニスル一方法トシテノ行爲ニ外ナラヌモノデアルカラ、決シテソレ自身ガ目的デハナク手段タルニ外ナラヌコト之デアル。¹⁾ 換言スレバ全然業ヲ罷メムガ爲メニ業ヲ罷ムルモノデハナク、更ニ有利ナル條件ノ下ニ業ヲ行ハムガ爲メニ一時ノ方便トシテ業ヲ罷ムルモノタルニ外ナラス。從テ同盟罷工ナルモノハ、ソレ自身ダケデハ何等ノ終局的意義ヲ有タヌモノデアル。果シテ能ク其ノ目的トスル所ノモノガ是ニ由リテ到達セラレタリヤ否ヤヲ見テ甫メテ、同盟罷工ノ意義ハ成立シ其ノ效果モ決定セラルル。是レ

1) E. Bernstein, Der Streik, S. 11fg.

即チ同盟罷工ガ目的行爲ニアラズシテ、手段行爲タルニ伴フ當然ノ性質デアツテ、同ジク業ヲ休ム乍ラモ、今日ハ仕事ヲスルノガ厭ダカラ休ム、身體ノ具合ヤ其他ノ事情デ仕事ガ出來ナイカラ休ムト云フノト、大ニ其ノ性質ヲ異ニスル次第デアル。

而シテ同盟罷工ハ手段行爲トシテハ固ヨリ之レ非常手段タルヲ失ハヌモノデアルカラ、一ノ抑壓手段トシテ行ハレ、從テ必ズヤ其ノ相手方タル雇主ニ對シテ精神的并ビニ物質的損害ヲ與ヘ、少クトモ之ニ物質的損害ヲ與ヘ、是ニ由リテ雇主ヲ威嚇シ若クハ困却セシメ、因テ以テ其ノ目的トスル所ノ要求ヲ容レシメントスルモノデアル。同盟罷工ガ已ニ一ノ抑壓手段タルカラニハ、ソガ精神的カ物質的カノ損害ヲ雇主ニ對シテ與フルモノデナクテハ、其ノ抑壓手段トシテノ效力ハ出テ來ナイ。²⁾從テ同盟罷工ト云ヘバ必ズヤ此ノ損害ヲ伴フト云フコトヲ其ノ性質上ノ必要條件トスルモノト見テ不可ナク、然カモ是レ實ニ同盟罷工ナルモノガ其ノ是非善惡ニ就キテ大ニ議論ノ戰ハサレ疑義ノ插マルル所以デアル。謂ハバ之レ最後ノ手段トシテノ力ノ爭デアリ一ノ戰鬪トモ見ルヲ得可キモノデアルカラ、其ノ是認セラルル場合ニ於テモ必ズヤ一方ニ犠牲ヲ伴ヒ、其ノ目的ヲ拔キニシテ之ヲ致フレバ、ソレ自身トシテハ常ニ禍害タルヲ免レ能ハザルコト、戰爭ニ於ケルト異ル所ハ莫イ。

同盟罷工ノ是非ニ就イテハ後ニ論ズルコトトシテ、兎モ角同盟罷工ハ一ノ抑壓手段トシテ相手

方ニ損害ヲ與フルコトヲ必要トスルモノデアルガ、然カモ是亦タダ手段トシテノ意味ニ於テ之ヲ必要トスルモノタルニ過ギスノダカラ、損害ヲ與フルコトソレ自身ヲ目的トスルモノトハ自ラ趣ヲ異ニスル。腹癒ヤ復讎ノ爲メニ之ヲ爲スモノトハ同様ニ論ズ可キモノデナイ。然シ要スルニ相手方ニ損害ヲ與フルト云フコトハ之ヲ必要ノ條件トシ、是レナケレバ即チ其ノ抑壓手段トシテノ效力ヲ失フノデアルカラ、同盟罷工ノ行ハルルハ大抵ノ場合ニ於テ相手方ノ最モ困ル時機ヲ選ムデセラルルモノデアル。サレバ經濟界ノ景氣頗ル好良ニシテ工業大ニ榮ヘ、製品ノ需要輻湊シテ生産者ノ勞働ニ對スル需要從テ大ナルガ如キ時機、然ラザレバ景氣一般ニ沈衰シ工業振ハズ生産者ハ纔カニ其業ヲ續ケ少シク故障アレバ動モスレバ事業失敗ニ陥ラムトスルガ如キ時機ハ、勞働者ニ取リテハ最モ乗ズ可キ時機デアツテ、同盟罷工ガ最モ容易ニ其ノ目的ヲ貫クヲ得ルハ斯カル時機ニ存スルコト甚ダ賭易キ所ナレバ、同盟罷工ハ斯カル時機ニ際シテ最モ多ク行ハレ、平常ノ時機即チ經濟界一般ニ平調ヲ保チ、風靜カニ浪穩カナル時ニ當リテ、突如トシテ同盟罷工ヲ見ルガ如キハ稀デアル。³⁾ 本年ニ於テ我國ニ特ニ同盟罷工ノ頻々トシテ行ハルルノモ、正ニ此ノ理由ニ因リテ然ルモノ、即チ大戰ノ影響ニ由ル我ガ生産事業界ノ繁榮ハ同盟罷工ノ勃發ニ都合好キ時機ヲ爲シ、輸出殷盛、注文殺倒、生産者ハ晝夜兼行デ全幅ノ生産力ヲ傾ケテモ尙ホ注文ニ應ジ切れズ、勞働者ハ一人デモ之ヲ失フヲ苦痛トスルニ、一般勞働市場ニ於ケル勞働者ノ供給ハ到底以テ其

3) W. Stieda, Arbeitseinstellung, im Hwb. f. Stw. I. Bd. S. 920 ff.

ノ需要ヲ充スニ足ラザル現下ノ狀態ハ、同盟罷工ノ起ルニハ最も都合好キ時機ナノデアル。

尙ホ同盟罷工ノ性質ニ關シテハ後ニ又「同盟罷工ノ是非」ナル題下ニ更ニ之ヲ明カニスルデアラウ。

二 同盟罷工ノ原因及ビ目的

同盟罷工ト一口ニ云フト雖モ其ノ目的トスル所ニ就イテ見レバ、今吾人ガ茲ニ論議ノ主題ト爲シツツアル所ノ經濟的ノモノト、之レトハ甚ダ其ノ目的ヲ異ニスル政治的ノモノトガアリ、兩者ハ理論上ハ明カニ之ヲ區別シナケレバナラス。

政治的ノ目的ヲ有スル同盟罷工ト云ヘバ彼ノ Syndicalism ガトカ又ハ New Unionism ガトカ云フガ如キモノガ、其ノ政治上ノ理想ニ到達スル手段トシテ、主トシテハ現存ノ社會及ビ經濟ノ根本的革新ノ爲メニ之ヲ行ハントスルモノ之デアル。即チ之ハ革命ノ手段トシテ行ハルル所ノモノデ、所謂直接行爲 direct action ノ一トシテ彼ノ sabotage ナドト同列ニ致ヘラルモノデアル。而シテソハ多ク後ニ揭グル總同盟罷工トシテ高唱セラルルモノデ、要スルニ其ノ目的トスル所ハ社會及ビ經濟ノ全般ニ渉ル政治的根本革新ニ存スル⁴⁾。然シ吾人ハ今ハ之ニ就イテ論議シヤウトスル者デナイコトヲ斷ツテ置ク。

4) A. D. Lewis, Syndicalism and the General Strike, London 1912, p. 217; André Tridon, The New Unionism, N. Y. 1913, p. 24; etc.

仍テ少シク經濟上ノ目的ヲ有スルモノニ就イテ觀ルニ、是ハ前ニモ既ニ述ベタルガ如ク、勞働契約ノ内容ノ改善ト云フコトヲ以テ目的トスルガ大多數デアルカラ、此種ノ同盟罷工ノ起ル原因及ビ其ノ目的トスル所ハ、主トシテ、勞賃問題、勞働時間、勞働上ノ權利ニ存スル⁵⁾。而シテ勞賃問題ニ於テハ勞賃ノ引上ヲ要求スルノガ最も多數デアルガ、然シ管ニ其高ノ多少ニ關スルモノノミナラス、其ノ支拂方法特ニ賃率契約 *Tarifvertrags* ノ締結ニ關スルモノモ少クナイ。次ニ勞働時間ニ於テハ勿論其ノ短縮ヲ要求スル場合ガ多ク、八時間勞働制ノ採用ヲ目的トスル場合ヲ多シトスルガ、尙ホ時間外勞働ヤ、休日ニ關スル問題ヤモ屢々爭議ノ原因トナルノデアル。最後ニ勞働權利ニ關シテハ勞働者ノ人格ノ承認及ビ尊重ト云フコトヲ以テ根本原因トナスヤ勿論デアルガ、勞働組合(*Trade Unions, Gewerkschaften*)ノ承認ヲ要請スル場合ガ少クナイ。

右三種ノ原因若クハ目的ノ中ニ在ツテ最も多キヲ爲スモノハ勿論勞賃ノ引上要求ナルガ、ソレデモ勞働時間及ビ勞働權利ニ關スルモノモ歐米諸國ニ在ツテハ決シテ少クナイノデアル。惟フニ此事ハ我國ニ於ケルト鮮カラズ事情ヲ異ニスル所タル可ク、我國ニ於テハ從來同盟罷工ト云ヘバ主トシテ專ラ勞賃ノ値上ノ要求ノ爲メニ行ハレタ。是ハ蓋シ我國ニ於ケル一般勞賃ガ比較的低安ナルニモ由ルコトデアラウガ、主トシテ、ハヤハリ我國ニ在リテハ尙未ダ勞働者一般ニ其ノ人格ノ尊重、經濟上及ビ社會上ニ於ケル其ノ地位ノ自覺、向上ノ爲メニスル教養ノ精神等ノ薄弱ニ

5) E. Bernstein, a. a. O. S. 25 fg.

シテ、此等ノタメニスル勞働ノ權利上ノ要求ヤ勞働時間短縮ノ要求ヤガ、未ダ同盟罷業ヲ起シテ迄モ之ヲ貫カナケレバナラスト云フホド切實ナラザルニ歸因スルト觀ナケレバナラス。我國ノ勞働者ハマダ一般的ニハ、少々時間ハ長ク働イテモ、亦多少人格的取扱其他ニ於テ不満足ナ點ハアツテモ、先ヅ賃金サヘ多ク取レレバソレデ我慢ガ出來ルト云フ感想ヲ持テ居ルモノタルコトヲ否ミ難イ。此事ハ勞働者ノ知識ノ淺ク識見ノ低イ時代及ビ國民ニ在ツテハ免レ難イ所デ、我國ノ勞働者ガ此等ノ點ニ於テ尙ホ大ニ歐米勞働者ニ對シテ遜色アルハ蔽フニ由ナク、爲メニ同盟罷工ノ原因ノ如キモ彼我ノ間ニ多少ノ逕庭ヲ生ジ來ル次第デアル。

特ニ現下ノ我國ノ如ク工業生産隆盛ヲ極メ、企業家ノ利潤大ナルニ加ヘテ、他方マタ物價ハ夥シキ騰貴ヲ爲シ生活費ノ彌ガ上ニモ嵩ミ來ル時ニ際シテハ、同盟罷工ガ専ラ賃金引上ノ要求ノ爲メニ行ハルルハ洵ニ自然ノ勢デアル。ソレニ又今勞働時間ノ短縮ガ行ハレテモ、其短縮ニ由リテ生ミ出サレタル餘暇ヲ利用シテ身體反ビ精神ノ健全ナル休養ヲ計ル可キ心掛ガ勞働者ニ缺如スルニ於テハ、時間短縮ハ無意義ニ終ルカ、然ラザレバ勞働者ノ怠惰ヲ増シ、甚シキニ至ツテハ遊興ヤ賭博ノ習慣ヲモ養ハシムルニ至ル迄ノコトデアツテ、却ツテ大イナル弊害ノ這間ニ生ジ來ルヲ免レ難イ。サレバ一般ニ、餘暇ヲ有用ニ過ゴス心掛ト希望トガ勞働者ニ缺ゲテ居ル場合ニハ、時間短縮ノ要求ハ多ク勞働者ノ間ニ起リ來ルノ理由ナク、勞働者ハ寧ロ長ク働クトモ出來得ル限

リ多額ノ勞賃ヲ得ムト希望スルモノデアル。而シテ我國現時ノ勞働者ハ遺憾ナラ實ニ猶ホ此ノ狀態ヲ脱シ得ナイノデアル。

ソハ兎モ角トシテ試ニ同盟罷工ノ原因ニ關スル區別ヲ英國ノ統計ニ就イテ示セバ左ノ如キモノカアル⁶⁾

直接ニ罷工ニ加盟セル勞働者ノ數

勞 賃		一九〇四 一九〇五 一九〇六 一九〇七 一九〇八 一九〇九 一九一〇 一九一一 一九一二 一九一三									
値上ノ爲メ	四、九六〇	一三、七三三	五、八八三	三三、一三三	一八、二六一	一三、八〇四	三〇、七五八	三三、四三三	二二、八〇六	三三、八八三	三三、八八三
最低勞賃制ノ爲メ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
値下反對ノ爲メ	一、三六四	一、一四三	一、三六三	一、一四三	一、一四三	一、一四三	一、一四三	一、一四三	一、一四三	一、一四三	一、一四三
其他	一、四八〇	一、三六三	一、三六三	一、三六三	一、三六三	一、三六三	一、三六三	一、三六三	一、三六三	一、三六三	一、三六三
合 計	三、八〇四	三、八〇四	三、八〇四	三、八〇四	三、八〇四	三、八〇四	三、八〇四	三、八〇四	三、八〇四	三、八〇四	三、八〇四
勞 働 時 間											
短縮ノ爲メ	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇
其他	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇
合 計	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇
特殊階級若クハ特殊人ノ使用ノ爲メ	六、〇八一	六、〇八一	六、〇八一	六、〇八一	六、〇八一	六、〇八一	六、〇八一	六、〇八一	六、〇八一	六、〇八一	六、〇八一
勞働設備其他ノ爲メ	一〇、一〇一	一〇、一〇一	一〇、一〇一	一〇、一〇一	一〇、一〇一	一〇、一〇一	一〇、一〇一	一〇、一〇一	一〇、一〇一	一〇、一〇一	一〇、一〇一
勞働組合主義ノ爲メ	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三
其他ノ原因	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三
總 計	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇	一、四八〇

6) Report on Strikes and Lockouts and on Conciliation and Arbitration Boards in the United Kingdom in 1913. p. XVI.

右表ニ照シテ是ヲ觀レバ、英國ニ在リテモ亦勞賃ノ値上ノ爲メ又ハ値下反對ノ爲メ其他一般ニ勞賃ニ關シテ同盟罷工ヲ行ヒタル勞働者ノ數ハ、何レノ年ニ於テモ他ノ原因ノ爲メニセルモノヨリモ遙カニ多ク、大抵總罷工者ノ過半數ヲ示シツツアリ。勞賃ニ亞イデハ勞働組合主義 Trade Unionismノ爲メニセルモノ多數ヲ占メ、勞働組合主義ノ承認及ビ其ノ權利主張ノ爲メニ斯クモ多數ノ罷工ヲ見ルコトハ洵ニ英國ニ於テ最モ顯著ナルモノタルニ相違ナキモ、兎モ角之ガ爲メニセル罷工者ノ數ガ勞賃ノ爲メニセルモノニ亞グハ甚ダ注目ニ値スル所ト謂ハナケレバナラヌ。而シテ此ノ統計ニ表ハレタル所ニ於テ勞働時間ノ短縮ノ爲メニセル罷工者ノ數ノ割合ニ僅小ナルハ、是レ實ニ英國ニ在リテハ勞働時間ハ既ニ相當ニ短縮セラレテシマツテ居リ、此上多ク其爲メニ要求スルヲ要セザルモノアルガ爲メデアル。元來勞働時間ノ短縮ト云フコトハ自然的ニ一定ノ制限ヲ有シテ居リ、先ヅ八時間勞働若クハ之ニ近キモノノ認メラレタル以上ハ、其上更ニ六時間トカ五時間トカニ短縮ヲ要求スルコトハ無イ筈デアル。如何ニ少ク働キテ多ク獲ルヲ欲スルガ人情ナリトハ云ヘ、五時間又ハ六時間勞働制ヲ主張スルガ如キコトハ極端ト云フノ外ナク、從テ此ノ方面ノ要求ノ爲メニスル同盟罷工ハ、勞働條件ノ既ニ大イニ改善サレタル進步セル工業國ニ於テハ、漸次減少シ來ル可キ筈デアル。

三 同盟罷工の種類

同盟罷工ハ先ツ其ノ行ハルル範圍ニ因リテ種別スルコトガ出來ル。同盟罷工ガ單一ナル企業内ニ於テ行ハルル場合ニハ之ヲ單一同盟罷工 Einzel-od. Abteilungsstreik ト稱シ、同一都市又ハ地方區域内ニ於ケル同種ナル多數企業ノ間ニ行ハルル場合ニハ之ヲ團體的同盟罷工 (Gruppenstreik) ト稱スル⁶⁷⁾。而シテ此ノ兩者ハ何レモ同一種ノ企業内ニ於ケル労働者ガ其ノ労働條件改善ノ爲メニスル罷工デアツテ、其ノ範圍ガ如何ニ擴大スルトモ、ソハ依然トシテ經濟的目的ヲ有スルモノタルニ過ギスガ、彼ノ總同盟罷工 (Generalstreik) ナルモノニ至ツテハ其ノ範圍ノ大ト云フコト以外、既述ノ如ク其ノ目的ニ於テ政治的意義ヲ有スルモノタルヲ忘レテハナラヌ。即チ彼ノ⁶⁸⁾總同盟罷工⁶⁹⁾ナルモノハ一種特別ノ意義ヲ有スルモノデアツテ、ソガ總同盟罷工ナル名稱ヲ有スルト云フ所ノミヨリシテ其行ハルル範圍ノ廣ク、同一種企業ニ屬スル全部ノ労働者ガ罷工ヲ行フ場合、又ハ全國アラユル企業ノ總テノ労働者ガ罷工ヲ爲ス場合ヲ指稱スルモノナリト解スルハ誤謬デアル。總同盟罷工ナルモノハ同一種企業例ヘバ造船業ニ關係アル労働者ガ一人殘ラズ一時ニ其業ヲ罷メタルガ如キ場合ヲ意味スルモノニアラザルト同時ニ、又全國ニ於ケルアラユル事業ノ労働者ガ總テ舉ツテ其業ヲ罷メル場合ヲモ意味セズ、又ソレヲ必要トセス。總同盟罷工ハ既述ノ如ク政治的

7) W. Stieda, a. a. O. S. 919;
E. Bernstein, a. a. O. S. 16 fg.

任務ヲ有シ經濟及ビ社會組織ノ根柢ヲ覆スヲ目的トスルモノデアルカラ、ツマリ現存ノ經濟組織ニ於テ其ノ死命ヲ制スルニ足ルノ地位ニ在ル最も重要ナル數多ノ事業ニ從事スル労働者ガ其ノ事業ノ運轉ヲ休止セシムルニ足ルダケノ數ニ於テ一時ニ其業ヲ罷ムルヲ以テ足レリトスル。即チ方今ニ在リテハ例ヘバ鐵道従業員、鑛山特ニ鐵坑及石炭坑従業員労働者、港灣船渠及船舶労働者、仲仕業者、紡績其他維織工業労働者、都市ニ於ケル建築業者等ノ如キガ同盟シテ其業ヲ罷ムレバソレヲ以テ總同盟罷工タルヲ得ルモノトセラルルノデアル⁶⁾。要ハ唯ダ經濟全組織ノ基石タルモノヲ覆没セシムルト云フコトニ必要ナル程度ノ種類及ビ範圍ノ罷工タル點ニ存スル。

而シテ彼ノ同情罷工 (Sympathetic strike) ナルモノニ至ツテハ、他ノ種類ノ事業ニ屬スル労働者ガ現ニ罷工ヲ爲シツツアル際ニ、之ニ聲援ヲ與ヘ、其ノ成功ヲ確實且ツ十分ナラシメムガ爲メニ他ノ種類ノ事業ニ屬スル労働者ガ同ジク罷工ヲ爲ス場合ヲ謂フノデアル。サレバ同情罷工ハ大抵ノ場合ニ於テハ被同情罷工ノ行ハレツツアル事業ニ對シテハ多少トモニ業務上ノ連絡アル事業内ニ起リ來ルヲ例トシ、又然カル場合ガ最も有效ナル次第デアルガ、同情罷工ガ一事業範圍ヨリ他ノ事業範圍ヘト漸次ニ擴ガリ行ク場合ニ於テハ、餘リ緣故ノ密ナラザル多數事業ニ跨リテ其行ハルルニ至ルコトモアリ得可キデアル。石炭坑労働者ノ罷工ニ對シテ鐵道従業員ガ同情罷工ヲ爲シ、更ニ又船渠仲仕業者ガ罷工シ、更ニ又船舶乗組労働者ガ罷工スルト云フガ如キハ、同情罷工ノ適

6) Jean Jausès, *Studies in Socialism* (translated by Mildred Minturn) N. Y. and London 1906, pp. 106-107.

例デアル。

以上掲グル所ノ同盟罷工ハ何レモ皆、普通ニ了解セラルルガ如ク、労働者ガ多數一時ニ同盟シテ其業ヲ罷ムルモノデアルガ、此ノ以外ニ尙ホうえつゝ氏夫婦ノ所謂 “strike en detail” ナルモノガアル。是ハ多數者ガ一時ニ其業ヲ罷ムルコトナク、多數者ガ秩序ヨク順次ニ其ノ業ヲ罷ムル方法デアツテ、先ヅ何程カノ労働者ガ暇ヲ取リテ去ルト、他ノ者ガ入リテ其後ヲ襲ヒ然カモ日ナラズシテ又暇ヲ取リテ去リ、又更ニ他ノ者ガ其後ヲ襲ヒテ間モナク又暇ヲ取リテ去リ、順次斯ノ如クニシテ雇主ヲ困却セシメ、雇主ハ労働者ノ要求スル所ヲ容ルルニアラザレバ、終ニ能ク其ノ必要トスルガ如キ労働者ヲ得ル能ハザラシムルモノ之デアル。

此ノ罷業方法ト同工異曲ナルモノハ他ニモ二三アル。就中彼ノ “irritation strike” ナルモノハ最も好ク之ニ似タルモノデ、労働者ハ雇主ニ通告スルコトナクシテ不意ニ其職ヲ去リ、暫クニシテ又來リテ職ニ復シ、後又暫時ニシテ再び不時ニ其職ヲ去リ、終ニ所期ノ目的ヲ果ス迄之ヲ繰返スノデアル。次ニ所謂 “bumper strike” ナルモノハ熟練職工ヲノミ使用スル事業ニ於テ雇主ヲ困却セシムル方法トシテ行ハルルモノデ、曾テ一九〇七年ニ巴里ノ寶石職工ノ間ニ行ハレタル同盟罷工ガ形勢不利ト見ラルルヤ、一店舗ニ雇ハレタル數名ノ者以外ハ總テ其職ニ復スルコトセラレ、此等ノ者ハ其賃錢中ヨリ右數名ノ罷工ヲ繼續スル者ノ爲メニ一週間其ノ賃錢ノ支給ヲ爲シ、

斯クテ其週ノ終リニ於テ此ノ數名ノ者ハ職ニ復セシメラルルト同時ニ、他ノ舖ニ於テ職ヲ奉ゼル者ニ業ヲ罷メシメテ他ノ一同ヨリ其ノ生活費ヲ給シ、以テ順次ニ一店毎ニ罷工ヲ繼續セシメタ方法ガ即チ之デアル。右等以外ニ“folded arms”ト稱セラルルモノガアル。是ハ佛蘭西ノ電話交換手ノ間ニ屢々行ハレタルモノデ、罷工者ハ其ノ就職ノ場所ヲ去ルコトナク、數時間若クハ數日間一時ニ其業ヲ行フノ手ヲ休メ、要求ノ容レラルルニ於テ輒チ再ビ其業ヲ繼續スルモノ是デアル。¹⁰⁾

凡テ右等最後ニ掲グル所ノモノハ彼ノsabotageナドト同ジク、さんぢかりすと云革命的ナルUnionismニ屬スル者ナドノ好ムデ行フ所ノモノデアツテ、さばたーぢガ“Ca-Canny”ヤ“put salt in the sugar”ナドノ形ニ於テ表ハルルガ如ク、同盟罷工ガ變態トシテ表ハレタルモノニ外ナラス。而シテ其ノ方法ノ甚ダ陰險ニシテ男ヲシカラズ、然カモ其ノ効果ノ甚ダ貧少ナル、實ニ之レ惡ム可ク賤ム可ク又蔑ム可キモノト道ハネバナラス。而シテソガ一般ニ廢頽ノ氣風ニ依テ養ハレタルモノナルヲ思ハザルヲ得ザル次第デアル。

四 同盟罷工ノ是非

革命的手段トシテノ總同盟罷工^{トテリタルノストライク}ヤ其他所謂直接行爲トシテ之ト同列ニ收ヘラルル種類ノ罷工ハ其ノ本來ノ目的ガ現在ノ經濟及ビ社會制度ヲ根本的ニ打破シヤウトスルニ存スルカラ、其ノ是非

ニ就キテ茲ニ議論ス可キ限リデハナイ。現制度ノ承認セラルル限リソハ固ヨリ不法ノモノデア
リ、ヨシ又現制度ガ改善若クハ革新ヲ要スルモノナリトセラルルニシテモ、之ヲ行フ手段トシテ
此種ノ同盟罷工ガ果シテ其ノ目的ニ叶フモノナリヤ否ヤモ疑問デアアル。ガ凡テ此等ノ問題ハ暫ク
之ヲ措キ、茲ニハ唯専ラ經濟上ノ目的遂行ノ爲メニ行ハルル同盟罷工、詳言スレバ労働者ガ其ノ
労働契約ノ内容改善ヲ要求スル最後ノ手段トシテ用ユル所ノ同盟罷工ニ就イテ、少シク其ノ是非
ヲ考ヘテ見ヤウ。

同盟罷工ガ其ノ目的トスル所ノ如何ニ拘ラズ、手段トシテハ即チ之レ抑壓手段タリ威脅手段タ
リ、相手方タル雇主ニ對シテ精神的并ビニ物質的損害ヲ與フルヲ以テ其ノ必要條件ト爲スモノタ
ルコト既述ノ如クナルカラニハ、ソガソレ自身トシテ己ニ一ノ災疫タリ禍害タルコトハ之ヲ否ム
コトガ出來ヌ。ソレ自身ガ一ノ禍害タルヲ否ミ難キコトハ即チ之レ戰爭ト異ラザル所デアツテ、
其ノ目的ガ善ニシテ美ナルモノナリトスルモ、手段トシテノ事ソレ自身ハ惡タリ醜タルヤ一般ニ
戰爭ニ共通ナル性質デアツテ、其ノ戰爭ガ石火ノ戰爭タルト、同盟罷工ノ如キ意味合ノモノタル
トニ由リテ異ル所ハナイ。ツマリ力ニ依リテ最後ノ決定ヲ爲シ、然カモ其ノ力ノ争ガ精神的并ビ
ニ物質的損害ヲ相手方ニ與フルコトヲ必然ノ要件ト爲シ、之ヲ與ヘテ相手方ヲ困却セシメ屈服セ
シメントスルモノタル限リ、ソハ即チ戰爭デアリ、又ソガ事ソレ自身トシテ之ヲ放フレバーノ禍

害タルコトハ、誰人ト雖モ之ヲ承認シナクテハナラヌ所デアル。

同盟罷工ガソレ自體トシテ一ノ禍害タルヲ免レヌコトハ即チ右ノ如クデアルガ、然シ乍ラ問題解決ノ手段タル可キ適當ノ方法ノ他ニ存在セズ、所謂最後ノ手段トシテ之ニ據ルノ外他ニ道ナキ場合ニ於テハ、殺戮之レ事トスル砲火ノ戰爭スラモ正當トセラルルノデアルカラ、同盟罷工モ亦實ニ已ムヲ得ヌ次第トシテ其ノ正當ナルヲ認メラルルノ外ハナイ。手段トシテソレ自身ハ禍害ヲ伴フモノデアルケレドモ、其ノ目的トスル所ガ禍害ソレ自體ニ存セズシテ他ノ積極的ナル建設方面ニ存スル限り、ソノ目的ノ成就セラルルニ於テハ犠牲トシタル禍害モ贖テ償ハレテ餘アルモノトシテ其ノ手段ハ正當トセラレル。又然カク之ヲ功利的ニ致ヘズトモ、其ノ目的トスル所ノ善美ナルモノタル限り、他ニ探ル可キ手段ナキニ於テハ、實ニ已ムヲ得ザルモノトシテ之ヲ正當トセナクレバナラス。

同盟罷工ナルモノガ、現今ノ労働賣買ノ制度ノ下ニ於テ、労働ノ賣手タル労働者ガ其ノ市場ニ於ケル自己ノ利益ヲ擁護スル爲メニ取ル可キ已ムヲ得ザル手段タルコトハ、又必要缺グ可ラザル手段タルコトハ、じよん、すちゅあーど、みる氏ノ夙ニ道破セル所デアル。労働者ハ労働市場ニ於ケル其ノ賣買取引ニ於テ自己ノ地位ト利益トヲ擁護セントスルモ、各自一己ヲ以テシテハ其ノ力甚ダ微弱ニシテ到底其ノ主張ノ容レラル可クモナク、雇主ハ労働者ニ對シテハタダ與ヘタルモ

ノヲ取レ然ラザレバ休メヨ、爾休ムレバ輒チ他ヲ以テ爾ニ代ヘシノミト云フノ態度ヲ取リ、労働者ハ其ノ與ヘラレタルモノヲ取ルカ然ラザレバ餓死スルカ、兩途其ノ何レカラ選ブノ外ハナイ。現時ノ如ク賣買取引ノ大量的ニ行ハルル状態ノ下ニ於テハ、労働其他一般ニ代替的貨物ハ一個々々トシテハ洵ニ其ノ地位ノ薄弱ナルモノデアル。少シク缺點アレバ直チニ他ト取替ラルルバカリデアル。茲ニ於テカ労働者ハ労働ノ賣買條件ヲ自己ニ有利ナラシメンガ爲メニ其ノ賣手トシテノ地位ヲ堅固ナラシメントスルニハ、勢ヒ他ノ自己ト境遇事情ヲ同クスル者ト連盟シ、集合サレタル力、集合ニ由リテ生ジ來ル力ニ依リテ事ニ臨ムノ外ハナイ。同盟罷工ハ即チ此ノ意味ヨリシテ地位境遇ヲ同クスル者ガ集ツテ大ヲ爲シ以テ力ヲ得、其力ニ依リテ貧弱ナル各個人トシテノ労働者ノ地位ヲ上ボシ境遇ヲ改善セントスルモノニ外アラヌ。サレバ同盟罷工ナルモノハ、労働者ガ其ノ地位境遇ノ改善特ニ直接ニ勞賃ノ引上ヤ労働時間ノ短縮ヤ労働團結ノ承認ヤヲ雇主ニ要請スルガ爲メニハ、實ニ己ムヲ得ザル又必要缺グ可ラザル手段ト謂ハナケレバナラスノデアル。而シテソガ己ムヲ得ザル又必要缺グ可ラザル手段タル限り、現今ノ労働賣買制度ノ下ニ於テハ又實ニ正當ナル手段ナリトセラレナケレバナラス。

昔時ノ如ク労働者ガ奴隸トシテ人格ヲ認メラレズ物件トシテ權利ノ客體タリシ時代ニ在リテハ、己ニ労働ニ就クト云フコトカラガ其ノ自由意思ニ出ヅルモノデナク、從テ又其ノ自由意思ニ

依テ其業ヲ罷ムルコトモ許サレズ、勞働ノ條件ハ總テ自己ノ所有主タル雇主ノ與フル所ノモノヲ其儘ニ受諾スルノ外ハナカツタ。然ルニ現時ニ在リテハ勞働者タルト何者タルトノ別ナク、法律ノ前ニハ各人平等ニシテ等シク其ノ人格ノ認メラレ其ノ自由ト獨立トノ保證セラレタル次第デアルカラ、勞働ヲ賣ルト賣ラザルト、賣ルニ就ケテハ其ノ條件ヲ如何ニスルカト云フコトハ勞働者自身ガ所謂自由契約ニ依リテ雇主トノ間ニ自由ニ之ヲ取決ム可キモノデアル。何人ト雖ドモ其ノ勞働ヲ賣ル可ク強制セラルルコトナキト同時ニ、又其ノ賣ル可キ條件ニ就キテモ強制ヲ受クルコトナク、自己ノ自由意思ニ依リ之ヲ賣ラント欲スレバ即チ賣ル可ク、之ヲ賣ル條件可ナリト信ズレバ其ノ條件ノ下ニ之ヲ賣リ、其ノ條件不可ナリト信ズレバ之ヲ賣ラザル迄ノコトデアル。此等ノ點ニ關シテハ何等法律上ノ強制モナク制限モナイ。サレバ今勞働者ガ就職中其ノ勞働契約條件ノ不可ナルヲ信ジテ其ノ改善ヲ要求シ、其ノ適當ナリト信ズル條件ガ契約ノ相手方タル雇主ニ依リテ承認セラルル迄ハ一時其ヲ罷メテ問題ノ解決ヲ待ツト云フコトハ、現時ノ自由契約制ノ下ニ在リテハ寸毫モ違法ノコトデハナイ。

而シテ已ニ各個人トシテノ勞働者ガ勞働ヲ賣ルト否トニ自由ノ選擇ヲ爲シ得ルノ權利ヲ有スルモノタルカラニハ、多數人ガ同時ニ同様ノ選擇ヲ爲ストモ何等妨ノアル可キ筈ハナイ。サレバ即チ今勞働者ガ多數一時ニ連盟シテ勞働條件ノ改善ヲ雇主ニ要求シ其ノ容レラルル迄一時其業ヲ休

ムコトハ、遇々之レ同様ナル條件ノ下ニ働ク多數労働者ノ労働條件ニ對スル意思ノ一致シ、一致ノ行動ヲ取ルニ至リタル迄ノコトデアツテ、ソガ多數者ノ同盟的行動ナレバトテ、何等法律ニ違反シ抵觸スル所ハナイ。一人ニシテ自由ニ之ヲ爲シ得ルモノタラバ同一條件ノ下ニ働ク多數者ガ其ノ條件ニ關シテ意思ノ一致ヲ見、一致ノ行動ヲ取ルニ至リタレバトテ、其モ亦何等法律ニ抵觸スルコトハナイ筈デアル。

併シ乍ラ更ニ進ミテ之ヲ致フレバ、先ニ既ニ之ヲ明カニシタルガ如ク、同盟罷工ナルモノハ唯單ニ同一條件ノ下ニ働ク多數労働者ガ其ノ労働條件ニ關シテ遇然ニモ意思ノ合致ヲ見タルガ故ニ輒チ一致ノ行動ヲ取ルニ至ルト云フダケノ簡單ナモノデハナイ。勿論タダソレダケノ簡單ナノモアリ得可キデアルガ、同時ニ又多クノ場合ニ於テハ、故意ニ意思ノ一致ヲ圖リ種々ノ規約ヲ設ケテ努メテ一致ノ行動ヲ取り、然カモ罷工ヲ行フニ當リテハ成可ク雇主ニ都合惡キ時期ヲ選ビテ成可ク多數ノ労働者ガ一時ニ其業ヲ休ミテ雇主ヲ困却セシメ迷惑セシメ之ニ物質的并ビニ精神的損害ヲ齎シテ以テ労働者ノ主張ヲ貫徹シ強テ其ノ要求ヲ容レシメントスルモノデアル。而シテ此ノ雇主ニ損害ヲ及ボスト云フコトハ同盟罷工ニハ必要ノ條件トセラレ然カモ其ノ損害ノ觀面ニ又十分ニ表ハレ來ル可キ時期ヲ選ビテ事ヲ舉グルガ同盟罷工ニハ必要ナルたくちつくナリトセラルルモノナルカラニハ、同盟罷工ナルモノハ右ニ説明スルダケノ消極的ナル意味以外ニ、尙ホ労働者

ガ雇主ニ對シテ其ノ地位ヲ高メ境遇ヲ改善センガ爲メニスル積極的ナル鬭爭行爲タリ鬭爭手段タル性質ヲ有スルモノナルコトヲ認メナクテハナラヌ。此ノ意味ヨリシテ社會主義者ノ如キハ同盟罷工ヲ以テ資本主對勞動者間ニ行ハルル階級戰爭 *Klassenkampf* ノ一發現ナリトスルノデアル。

斯ク同盟罷工ガ勞動條件改善ノ爲メニスル要求ノ容レラルル迄其業ヲ休ミテ事件ノ落着ヲ待ツト云フ消極的の意味以外、尙ホ其ノ要求貫徹ノ爲メニ雇主ヲ抑壓シ威脅セントスル積極的ナル鬭爭手段タルノ意義ヲ有スルモノナリトスレバ、其ノ消極的の方面ハ何等法律ニ違反スルコトナク勞動者ノ自由ニ爲シ得可キ所ナリトスルモ、其ノ積極的の方面モヤハリ同様ニ現時ノ法律思想ニ戾ルトナク又法律ニ抵觸スル所ナキ自由ノ行爲ナリヤ否ヤニ就イテハ、尙ホ少シク攻究シテ觀ナケレバナラヌ。

同盟罷工ノ此ノ積極的の方面ガ法律ノ成文ニ抵觸スル所ナキヤ否ヤハ、之レ固ヨリ國々ニ於ケル現實ノ問題デアツテ、之ヲ禁ズル法規ノ存スルト否トニ依リテ之ヲ識別スルノ外ナク、甚ダ簡單ナ問題デアル。所ガ之ヲ解釋論トシテ觀ズ、法律家ノ所謂立法論トシテ觀、元來此種ノ行爲ハ法律ノ根本精神ニ對シテ矛盾スル所ナキモノナリヤ否ヤト云フ一段ニナツテ來ルト問題ハ然カク簡單デハナイ。吾人ハ所謂法律學者デハナイカラ、此ノ問題ニ關シテ法律上精確ナ議論ヲスルコトハ出來ヌガ、之ヲ現時ノ法治國家ノ成立ノ事情ニ鑑ミ、又民權ノ主張ニ基ク憲法制定ヤ其他ノ

法律制定ノ精神ニ照シ致フルニ於テハ、同盟罷工ガ勞働利益ノ増長擁護ノ爲ニスル最後ノ手段タリ闘争行爲タル性質ヲ有スレバトテ、其ガ直チニ法ノ根本精神ニ戾ルモノナリトハ信ズルコトガ出來ヌ。抑モ現時ノ憲法法律ハ其初メ舊來ノ支配者階級ニ對スル所謂第三階級ノ反抗ニ依ツテ生マレ其間ニ行ハレタル闘争ノ結果トシテ築キ上ゲラレタルモノデアル。而シテ今ヤ經濟ノ發達及ビ社會ノ分化ト共ニ所謂第四階級ナルモノノ發生ヲ見ルニ至リ、之等ガ其ノ階級トシテ有スル利益ノ維持増進ノ爲メニ主張ヲ擧ゲ、然カモ現制度ノ根本的革新ヲ要求スルニハアラズシテ、現制度ノ下ニ於テ其ノ主張ノ容認ヲ求メンガ爲メニ運動ヲ起ス場合ニ於テハ、ソガ同盟罷工タルト他ノ形ヲ以テ表ハルル運動ナルトヲ問ハズ、頭カラシテ其ノ不法タリ違法タルヲ言フコトハ出來ヌ。

サレバ今同盟罷工ノ行ハルルニ當リテ、其レニ隨伴スル損害ガ、タダ企業者タル雇主ノ企業利得ヲ少ナカラシムルト云フニ止マル普通ノ程度ノモノタル限りハ、其ノ行動ハタダ損害ヲ隨伴スルト云フダケノ理由ヲ以テ公法的ニ違法ナリトハスルコトガ出來ヌ。ソガ公法的ニ違法タルガ爲メニハ其ノ損害ハ所謂社會利益ヲ傷害スルモノデナクテハナラヌ。ソガ雇主ノ企業利益ヲ少ナカラシムルアリトモ、同時ニ社會利益ヲ傷クル所ナキ限りハソレヲ以テ公法的ニ違法ナリ不法ナリトハスルコトガ出來ヌ。斯ルガ故ニ同盟罷工ガ暴行ヲ伴ヒ或ハ器物ヲ毀損スルトカ人ノ生命ヲ脅カストカ、或ハ社會ノ安寧ヲ害シ秩序ヲ紊亂スルトカ、積極的ニ社會ノ公益ヲ害スルニ於テハソ

ハ固ヨリ不法デアル。即チ斯カル場合ニハ或ハ治安警察法ニ牴觸スルトカ或ハ刑法其他ノ法規ニ牴觸スルトカ成文法ニ對シテモ違反トナルデアラウシ、又現時ノ法律精神ヨリシテ之ヲ考ヘテモ不法タルヲ免レヌ。併シ乍ラ社會ノ安寧ヲ害ヒ秩序ヲ紊スト云フコトハ其ノ解釋ハ十分之ヲ慎重綿密ニス可キモノデアツテ、タダ多數者ガ同盟シテ業ヲ罷メタリト云フダケデ安寧ヲ害スルモノデモナク又秩序ヲ紊ルモノデモナイ。昔時ノ奴隸ガ同盟シテ業ヲ罷メタラバンハ其事ダケデ以テ直チニ秩序ヲ紊ルコトニナルデアラウガ、現時ノ自由勞動者ニ在リテハ、既ニ述ベタルガ如ク、勞動ヲ爲スト爲サヌトハ其ノ自由トスル所デアルカラ、多數者ノ同盟ニ由ル罷工ナレバトテ之ヲ以テ直チニ秩序ヲ紊ルモノトハ爲スコトガ出來ヌ。サレバ之ヲ要スルニ同盟罷工ハ暴行脅迫等ノ事實ヲ伴ハザル限リハ、ソガタトヘ企業者タル雇主ノ損害ヲ伴ヒ之ニヨリテ其ノ意思ヲ抑壓セントスル鬭爭手段タリトモ、之ヲ以テ公法的ニ不法ノ行爲ナリトハス可カラザルモノデアル。

元來今ノ經濟ハ所謂自由競爭ノ原則ノ上ニ築カレタルモノデアル。從テ勞賃ノ高ノ決定セラレ其他諸般ノ勞動條件ノ決定セラルルノモ、皆此ノ自由競爭ニ依リテ行ハルルノデアルカラ、今勞動者ガ各自一個ヲ以テシテハ此ノ競爭場裡ニ優秀ノ地位ヲ占ム可ラザル所ヨリ、多數同盟シテ勞動條件ヲ自己ニ有利ナラシメントスルハ、即チ之レ競爭ノ一手段タルニ外ナラズ、換言スレバ勞動條件決定上ノ契約締結ニ對スル掛引ニ外ナラズ、自由競爭制ノ認メララル以上ハ之ヲ以テ不當

トスルコトハ出來ヌ。況ンヤ勞賃ト云ヒ企業者ノ利潤ト云ヒ其高ノ決定サルルニ當リテハ勞働者ト企業家トノ地位ノ弱強、實力ノ強弱ガ少カラザル影響ヲ及ボスモノタルカラニハ、今勞働者ガ同盟ニ依リテ其ノ地位ヲ強メ、由テ以テ分配上ニ有利ノ割前ニ預ラントスルハ、現制度ノ下ニ於テハ謂ハバ當然ノ事デアツテ、不法ト見ラル可キ所ハナイ。此ノ意味ニ於テハ同盟罷工ヲ行フモ勞働組合ヲ組織スルモ同ジコトデアル。共ニ之レ勞働者ノ正當ナル權利行爲デアル。

カルガ故ニ現今何レノ文明國ニ於テモ同盟罷工ヲ以テ不法ノ行爲トスルモノハナク、法律モ之ヲ認メテ居ル。タダ其行ハルルニ當リテ暴行脅迫等ノ之ニ隨伴セザルヲ要スルヤ勿論ノ義ニ屬スル。クレドモ同盟罷工ハ法律上タダ不法ノ行爲ニアラズト云フダケノコトデアツテ、ソレ自身ガ一ノ禍害タル性質ハ之ガ爲メニ消滅スルモノデハナイカラ、各國トモニ努メテ其ノ發生ヲ妨ギ又其ノ害ヲ小ナラシメ、此ノ方法ニ依ラズシテ勞働契約ニ關スル諸般ノ問題ノ圓滿ニ解決サルル様ニト經營努力シツツアルヤ言フ迄モナイ。所詮之レ inevitable evil タルニ外ナラヌモノデアルカラ、之アルハ決シテ人生ノ幸福デハナイ。速カニ之ヲ除去シ得テ然カモ圓滿ニ勞働問題ノ解決サルルニ至ラムコトハ天下ノ齊シク之ヲ希望スル所デアル。

五 同盟罷工ノ數ト結果

同盟罷工トハ凡テ上ニ述べ來レルガ如キ性質ノモノナリトシテ、扱テ從來諸國ニ於テ實際行ハレタル同盟罷工ノ狀態ニ就イテ見ルニ、各國トモニ産業特ニ工場工業ノ大發達ニ由リ工場ノ數ノ著シク増加シ、從テ之ニ使用セラルル勞働者ノ夥シク増加シ、然カモ他方ニハ物價ノ漸次騰貴シ生活標準ノ追々ニ高マリ、更ニハ又勞働者ノ自覺其ノ教養ノ進歩ニ由リ其ノ地位及ビ待遇ニ關スル要求ノ漸次高マリ來ルニ連レテ、勞働ニ關スル爭議ハ年ト共ニ其數ト意義トヲ増シ來ルヲ免レ得ナカツタ。ケレドモ他方ニハ又後ニ之ヲ詳論ス可キガ如ク同盟罷工ヲ未然ニ防ギ又其ノ結末ヲ圓滑ニ行ハシム可キ和解及ビ仲裁ノ制度モ發達シ來リ、更ニハ勞働者自身ノ側ニ在リテモ勞働組合ノ普及シ其ノ組織ノ完成シ其ノ職能ノ漸次有效ナルニ至レルガ爲メニ、同盟罷工ノ勃發ノ防ガレタルモノモ尠カラズ、又其ノ勃發ノ止ム可ラザリシモノモ其ノ效果ハ漸次有效ナルモノタルニ至ルノ傾向ノ認ム可キモノガアル。

先ヅ之ヲ同盟罷工ノ數ヨリ見レバ其ノ増加ス可キ事情ハ、其ノ増加ヲ防グ可キ事情ト稍々平均ヲ得ントシツアルケレドモ、然モ尙ホ其ノ數ノ上ニ於テハ比年アマリ顯著ナル減少ノ認ム可キモノナク、ヤハリ多少増加スルノ勢ヲ保チツツアル。試ニ英、獨、佛ノ統計ヲ示シテ見ヤウナラバ左ノ通りノ狀態デアル。

●英吉利ノ同盟罷工十年比較表¹¹⁾

年次	罷工數	罷工ニ與參セル勞働者ノ數			罷工ノ繼續セル 日數合計
		直接	間接	合計	
一九〇三	三六七	九六,四二五	二六,三六六	一二二,七九一	一,四四三,七六一
一九〇四	三三三	八六,八八〇	二〇,八二六	一〇七,七〇六	一,三二六,六六六
一九〇五	三三八	六七,五五三	一五,八八〇	八三,四三三	一,二九七,九七三
一九〇六	四六六	一七五,七三三	五九,八〇一	二三五,五三四	一,五七〇,九五四
一九〇七	三〇一	一〇〇,七三六	四九,七四〇	一五〇,四七六	一,八八六,六六六
一九〇八	三九九	一三三,六六三	七二,三六八	二〇六,〇三二	一〇,六三三,六三八
一九〇九	四三六	一四〇,四八八	一〇,三六一	一五〇,八一九	二,五八〇,四二四
一九一〇	三三一	八八,〇八五	一五,〇〇〇	一〇三,〇八五	九,五五五,六一一
一九一一	九三	八二,一〇四	一四,〇七六	九六,一八〇	七,六〇〇,六七五
一九一二	八五	一,三三三,〇一六	二〇,八七六	一,三五三,八九二	八,一三三,一〇一

右英吉利ノ狀態ニ就イテ見レバ罷工ハ其數ニ於テモ人員ニ於テモ比年増加ノ勢ヲ見ル可キモノガナイ。人員ノ増加ハ工業ノ漸次大規模トナル結果已ムヲ得ヌ所ナリトスルモ、セメテ罷工ノ數ダケハ減少シテ欲シイモノデアル。而シテ一九一一年ハ就中最モ罷工ノ多カリシ年デ彼ノ鐵道業者ノ大罷工ノ行ハレタノハ此年デアル。

●獨逸帝國ニ於ケル同盟罷工十年比較表¹²⁾

年次	罷工數	罷工ニ表ハレタル業務	罷工ニ表ハレタル諸業務使用人	時ヲ同クセル罷工者ノ最大數
一九〇三	一,四四三	五,〇〇〇	一六,八八八	八五,〇〇〇
一九〇四	一,八七五	一〇,三三一	二四,七四四	一一五,〇〇〇
一九〇五	二,四〇一	一五,八六一	三六,九八五	四〇,〇〇〇
一九〇六	五,一三六	一六,三三三	六六,七四三	四〇,〇〇〇

11) C. H. Mote, Industrial Arbitration, p. 51 (Report on Strikes and Lockouts and on Conciliation and Arbitration Boards in the United Kingdom in 1912, p. IX, Infroduction)

12) Mote ibid. p. 79.

一九〇七	二〇、八六	四四、一六	一、零一、四〇
一九〇八	一、四四七	四七、七四	六、八、三三
一九〇九	一、五三七	四八、一一	六、六、三三
一九一〇	二、二二五	五七、〇八	一、五、六〇
一九一一	二、五五五	五九、八〇	二、四、〇八
一九一二	三、一五〇	六三、七五	三、〇、一一

獨逸ニ於テモ亦十年間ノ罷工數ハ増加ノ勢ハ之レアリトモ減少ノ勢ハ之ヲ認メ難イ。而シテ罷工者ノ數モ漸次大トナリツツアル。ケレドモ彼ノ一九〇五及六年ハ實ニ最モ勞働不安ノ甚シカツタ年タルヲ知ルコトガ出來ル。

●佛蘭西ノ同盟罷工年比較表¹³⁾

年次	罷工數	罷工者數	業務數	失ハレタル日數
一九〇五	八、〇〇	一、四、八、八	五、三、〇、一	二、八、四、六、八
一九〇六	一、〇、六	一、八、八、八	一、六、八、七	六、八、八、三三
一九〇七	一、二、五	一、三、九、三	八、五、六、五	五、五、五、二〇
一九〇八	一、〇、八	一、〇、七、五	九、〇、二一	一、七、一、七五
一九〇九	一、〇、九	一、〇、五	一、六、四、六	三、五、九、八〇
一九一〇	一、三、二	一、三、二	二、八、一、四	四、八、八、〇四
一九一一	一、九、一	一、四、一	三、〇、〇、五	四、〇、六、三三
一九一二	二、二、六	二、二、六	三、七、一、四	五、二、八、四三

佛蘭西ニ在リテハ事情ハ英獨ニ於ケルト稍々趣ヲ異ニシ罷工數ノ減少ノ著シキモノハナイ乍ラモ、又多ク其ノ増加ノ勢ノ認ム可キモノモナイ。之ニハ種々ノ原因モアルコトデアラウガ其ノ鑒穿ハ暫ク措キ茲ニハタダ事實ヲノミ觀察スルニ止メテ置ク。

13) Mote, ibid. p. 103 (Compiled from Annual Reports of Ministère du Travail et de la Prévoyance Sociale : Statistique des Grèves et des Recours à la Conciliation et à l'Arbitrage)

次ニ進ムデ右等多數ノ同盟罷工ガ如何ナル結末ヲ告ゲタカ、詳言スレバ罷工者タル労働者ト被罷工者タル企業家トノ何レノ側ニ有利ニ解決サレタカラ檢シテ見ヤウ。先ヅ英吉利ニ於ケル狀況ハ左表ノ通りデアル。

●英國ノ罷工結果¹⁴⁾

年次	直接ニ罷工ニ與ハリタル労働者ノ割合 労働者ニ有利ナル解決	雇主ニ有利ナル解決	示談済又ハ半成功	不成功
一九〇三	三三・三%	四八・一%	二〇・七%	〇・〇%
一九〇四	三七・三%	四一・七%	二〇・九%	〇・一%
一九〇五	三三・七%	三九・〇%	二四・三%	〇・一%
一九〇六	四三・五%	二四・五%	三三・〇%	〇・〇%
一九〇七	三三・七%	二七・五%	四〇・〇%	〇・〇%
一九〇八	二八・七%	二五・七%	六五・六%	〇・〇%
一九〇九	二二・三%	三三・三%	六六・五%	〇・〇%
一九一〇	二六・五%	一三・八%	六九・七%	〇・〇%
一九一一	六・六%	九・三%	八四・一%	〇・〇%
一九一二	七・六%	一四・三%	一・一%	〇・〇%

右英國ノ實例ニ於テハ労働者側ニ有利ナル解決即チ罷工ノ完全ナル勝利ハ一九一二年ト云フ例外ヲ除イテハ年々ニ格別其割合ヲ増シテ居ルトハ見ヘヌ。反之雇主側ニ有利ナル解決ハ年ト共ニ漸次其ノ割合ヲ減ジツツアルコト爭ハレヌ事實デアル。然ルニ又示談済トナリタルモノヤ半半成功シタルモノノ割合ハ年々實ニ著シク其歩合ヲ増シツツアルコト洵ニ注目ニ値スル所デアツテ、是ハ同國ニ於テ労働者側ノ結合團結ノ漸次堅固トナリ其ノ罷工ノ方法ノ漸次又組織的トナリツツ

14) Report on Strikes and Lockouts and on Conciliation and Arbitration Boards in the United Kingdom in 1912, p. XIX.

アルニ對シテ、雇主側ノ防禦的連盟モ漸クニ確乎タルモノタルニ至リ、爲メニ兩團體ノ間ニ有效ナル直接商議モ行ハレ易ク、同時ニ又、國家其他ノ公共的機關ガ之ニ容喙シ其ノ解決ノ爲メニ盡力シ其ノ結果示談的ニ和解ノ成立シ、兩者ノ主張ガこむふろまいずヲ見出スヲ得テ、罷工トシテハ示談濟又ハ半成功トシテ解決サレタルモノトナルニ因ルモノト見ナクレバナラヌ。

●獨逸帝國ニ於ケル罷工ノ結果¹⁵⁾

年次	罷工				割合			
	完全ナル成功	半成功	不成功	合計	成功%	半成功%	不成功%	合計
一九〇三	三〇〇	四四	三〇	三八四	二・八	三・三	三・九	一〇・〇
一九〇四	四九	八八	三三	一七〇	二・九	五・八	三・二	一一・九
一九〇五	三六	三九	三三	一〇八	三・〇	三・三	三・七	九・〇
一九〇六	三三	一四九	一三	一八五	一・八	八・〇	一・二	一一・〇
一九〇七	三三	九〇	九	一三二	一・五	六・八	一・七	九・〇
一九〇八	二六	三七	四〇	一〇三	一・〇	三・四	三・六	七・〇
一九〇九	三三	五〇	七	九〇	一・八	五・六	二・六	九・〇
一九一〇	四九	九〇	七	一四六	一・九	六・〇	二・二	九・一
一九一一	四七	一八	八	七三	一・四	二・四	一・二	五・〇
一九一二	三三	一〇一	一〇	一四四	一・六	六・九	一・六	九・一

右獨逸ノ例ニ於テモ同盟罷工ガ完全ナル成功ニ終リタル場合ハ其ノ割合ニ於テ寧ロ少キニ過グルノ觀アリ、又其ノ比年ノ狀況モ決シテ成功ノ歩合ヲ増シテハ居ラヌ。惟フニ是ハ獨逸ニ在リテハ勞働者ノ經濟的地歩ノ未ダ十分堅固ナラズ、勞働組合ノ發達ノ如キモ英國ナドニ比シ遙カニ遜色アルニ拘ラズ、他方資本主企業家側ノ聯盟ハ中々鞏固ナルモノアリ、獨逸産業一般ノ狀況ガ從

15) Mote, Industrial Arbitration p. 79 ノ材料ヨリ作製

來ハ其ノ氣風ニ於テモ亦實際事情ニ於テモ同盟罷工ノ成功ニ十分都合好カラザルモノナリシニ歸因スルト觀ルノ外ハアルマイ。

●佛蘭西ノ罷工結果¹⁶⁾

結果	罷工		數		平均罷工者數	
	一九〇二—一九一一年	一九一二年	一九〇二—一九一一年平均	一九一二年	一九〇二—一九一一年平均	一九一二年
成功	三・〇三	一七・元	二・三七	六・六	二・三七	六・六
和解	三八・〇三	四・三	四・三	二・六	四・三	二・六
不成功	四〇・六	四・六	三・三	三・六	三・三	三・六

右表ノ示ス所ダケデハ罷工ノ成功歩合ガ年ニ依リ如何ナル變化ヲ生ジタルカハ是ヲ窺知スルコトガ出來ヌガ。之ヲ十年間平均ニ就イテ觀レバ、成功ノ割合ハヤハリ英獨ニ於ケルガ如ク、罷工總數ニ對シテ決シテ大ナルモノデハナイ。即チ僅カニ二割一分強ニ過ギナイノデアツテ不成功ノ四割強ニ對シ僅カニ其ノ半ヲ出デタルニ過ギヌ。仍テ試ニ以上三國ニ於ケル完全ニ成功セル同盟罷工ノ歩合ニ就キ十年間ノ平均ヲ比較シテ見レバ、ヤハリ最モ成功歩合ノ多イノハ英吉利デアツテ二割七分六厘、次ハ佛蘭西テ二割一分二毛、獨逸ハ最モ少クシテ僅カニ一割九分二厘ニ過ギヌ。又以テ三國ニ於ケル勞動者ノ地位ノ強弱ノ一端ヲモ窺フニ足ル次第アル。

何レノ國ニ於テモ同盟罷工ハ年ト共ニ其數ハ寧ロ増加シツツアルニ拘ラズ、其ノ結果ハ却ツテ完全ナル成功ヲ奏シ得ルモノ少キニ至ルノ傾向アリ、少クトモ成功ノ歩合ノ増加スル勢ノ認め可ラザルコト右ニ示スガ如クナルコトハ甚ダ注目ニ値スル所タルヲ忘レテハナラス。べるんしたい

16) Mote, ibid. p. 107 (Statistique des Grèves et des Recours à la Conciliation et à l'Arbitrage Survenus pendant l'Année 1912, p. VII)

ん氏ハ同ジク統計ニ由リテ罷工ガ年々成功ヲ奏スル歩合ヲ増シツツアルヲ論證シテ居ルケレドモ、其ノ證據トシテ用ヒタル統計ハ一九〇〇—一九〇五年間ト云フ餘リニ短カキ期間デアツテ¹⁷⁾到底以テ真相ヲ明カニスルニ足リス。ヤハリ多少爲メニスル所アツテノ議論タルノ譏ヲ免レルコトガ出來ヌノデアル。

惟フニ同盟罷工ガ正々堂々タル要求ノ貫徹手段トシテ又權利主張ノ方便トシテ、好ク組織のニ行ハレ、法ノ認メ法ノ許シタル埒ヲ超ヘズシテ、然カモ頗ル有功ニ其ノ目的ニ對シテ十分ナル成功ヲ爲シ得ムガ爲メニハ、勞働者ノ間ニ平素ヨリシテ、堅實ニシテ穩健ナル又協同的精神ノ充溢セル組合^{ユニオン}ノ成立シ居ルコトヲ必要トスル。烏合ノ衆ハ其數如何ニ多トモ到底以テ能ク秩序アル組織的運動ノ下ニ主張ノ徹底ヲ見得可キモノデナイカラ、勞働者タル者ハ常ニ能ク同情ト協同ノ精神ヲ以テ團結シ、節制アル秩序ヲ以テ事ヲ行ヒ、着實ニシテ然カモ力アル手段ニ由ツテ其ノ正當ナル主張ハ飽迄之ヲ貫徹スルニ心掛ナクテハナラス。而シテ之レ實ニ勞働組合ノ必要トセラルル所以デアツテ、同盟罷工ガ純經濟的ノモノトシテ公明正大ナル然カモ有效ナル勞働利益伸張ノ手段タルヲ得ムガ爲メニハ、ソハ必ズヤ勞働組合ノ手ニ依リテ行ハルルヲ必要トスルノデアル。此事ハ同盟罷工ノ問題ニ關シテハ太ダ重要ナル意義ヲ有スルモノデアルカラ、尙ホ後ニ之ヲ詳論スルデアラウ。(未完)